

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94703	市内遺跡発掘調査費		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財など保存・継承
	根拠計画	実施計画・中期財政計画					
実施計画事業	市内遺跡発掘調査事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	埋蔵文化財を保護し次代に伝える		
概要	事業の実施手法(手段)	開発事業により影響を受ける埋蔵文化財を記録保存する。保存活用に必要な遺跡の内容を確認する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	宇津江中村遺跡、山本倉田遺跡、松本町須恵器散布地試掘調査、広瀬城跡現況測量、図面・遺物整理					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	埋蔵文化財対応件数	件	目標値	15	15	15
		実績値	26	26	22		
	成果指標	算出根拠等	埋蔵文化財発掘の届出、通知数	達成率(%)	173	173	147
		現地調査・指導件数	件	目標値	3	3	3
	算出根拠等	実績値	3	3	4		
		算出根拠等	試掘調査件数	達成率(%)	100	100	133
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	目標値					
実績値							
算出根拠等	目標値						
	実績値						
算出根拠等	目標値						
	実績値						
算出根拠等	目標値						
	実績値						
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	4,120	3,661	2,776	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			2,000	1,809	1,387	
	一般財源			2,120	1,852	1,389	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	44	40	30	
	受益者	市民	(B)	92,881	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	総合計画に位置づけられており、遺跡の保存、活用などのために重要性が高い。 地域の保存会などが遺跡などの保存や啓発活動などを行っており、古代遺跡などに対する市民のニーズは高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	埋蔵文化財は市全体の財産であり、その活用や啓発をすることで歴史的の理解を深めることは地方公共団体で事業実施する必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	各種開発の対応を行った。 調査により遺跡にかかる新たな知見を得た。 広瀬城跡の測量成果を得た。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	測量調査や掘削などの委託を行い効率化・省力化に努めている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	埋蔵文化財の調査により、歴史的価値を評価でき、市民への周知や意識向上への資料となった。 総合計画の(1)郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える①文化財などの保存・継承の達成に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・試掘調査などの効率的な実施。県補助金の復活によるコスト削減。 ・指定遺跡の歴史的価値の周知等により、市民への一層の意識向上を促す。
---------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・県に対して補助金の復活を求めなければならない。
----------------------	--------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・委託業務などで効率的な事業実施に取り組んでいる。
------------------	---------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・開発に対応するため、継続して事業を行う。 ・国史跡の指定に向け、調査成果を踏まえた検討を行う。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・県に対して補助金の復活を求めなければならない。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94710	郷土資料・図書購入事業費	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2977
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	7 文化財費		施策	1 文化財などの保存・継承	
	根拠計画					
実施計画事業	歴史資料購入事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	郷土に関わる歴史資料の流失、散逸を防ぐとともに、市民の郷土学習に役立てる。		
概要	事業の実施手法(手段)	郷土に関わる歴史資料を購入する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	郷土に関わる文人・画人の作品の購入 郷土の歴史に関する古文書等の購入 伝統工芸品、民俗資料の購入					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	資料購入件数		目標値	15	15	15
		算出根拠等		実績値	60	35	64
	成果指標	流失、散逸を防いだ件数		目標値	15	15	15
		算出根拠等		実績値	60	35	64
				目標値			
		算出根拠等		達成率(%)	400	233	427
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				目標値			
		算出根拠等		達成率(%)			
	補足事項						
	コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額	
		歳出(千円)		(A)	6,944	6,913	3,000
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源			6,944	6,913	3,000		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	75	75	33	
	受益者	市民	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	郷土の歴史遺産を大切にし、地域に愛着を深めるといふニーズは根強い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	郷土に関わる歴史資料の流失、散逸を防ぐため、資料の公有化は必要。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	郷土に関する貴重な資料の公有化が進められている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	基本的に一品物で、競争入札等に過ぎないが、金額の交渉が可能なものについては対応している。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	飛騨高山まちの博物館等で新蔵品展をはじめ、展示・活用している。 購入した書籍などをデータベース化し、HPで検索できるようにし、利用者へ便宜を図っている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・高山の歴史文化の資料充実のため、歴史的資源の散逸を防ぎ、活用を図る。
---------------------------------------	-------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・飛騨高山まちの博物館での展示も含め、購入した資料の更なる有効活用に取り組んでいく必要がある。
----------------------	-------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・収蔵品展等を行い、広く市民に公開、周知する。 ・購入書籍などのデータベース化と、館内システムでの検索を行い、利用者への周知と閲覧しやすく環境づくりに努める。
------------------	------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・継続的に貴重な歴史資料の購入を進める。 ・収蔵品展など市民への公開を継続的にすすめる。 ・学校などへ、資料の活用などの情報提供を行う。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・飛騨高山まちの博物館での展示も含め、購入した資料の更なる有効活用に取り組んでいく必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94730	文化財保護事業補助金	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2354
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り時代に伝える	
	目	7 文化財費		施策	1 文化財などの保存・継承	
	根拠計画					
実施計画事業	文化財保護事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	文化財保存団体	対象者数	46 団体
	どういった状態にしたいのか(意図)	地域で文化財を保存活用する活動を支援し、文化財の保存を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・文化財保存団体に対する補助 ・史跡や伝承芸能の保存を行っている団体の運営・活動経費にあてるため必要な補助を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・地区保存会(11団体) ・伝承芸能保存団体(11団体) ・国指定文化財管理(7団体) ・屋台管理(1団体) ・市指定文化財管理(2団体) ・高山祭屋台保存技術後継者育成(1団体) ・史跡保存団体(12団体)					
		指標名	単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	補助件数	件	目標値	47	49	47
				実績値	47	47	46
				算出根拠等	達成率(%)	100	96
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
	成果面	算出根拠等	目標値				
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 6,007	6,032	6,395		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源		6,007	6,032	6,395		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 65	65	70		
	受益者	市民	(B) 92,861	92,097	91,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・文化財保存団体における活動を対象としているため、団体からの要望は強い
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・文化財保存団体の活動に対して補助しているものであるため、経費の一部を市で補助することにより保存会の保存意欲の維持につながる
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・伝承芸能の継承や史跡の整備など、活動団体の積極的な文化財保護活動が行われ、多くの活動団体に利用されている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・国などの補助金制度についての情報提供を行っている
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画にも位置づけられており、文化財保護や継承においても重要である
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なのかを記入)	・国等の補助金を活用して、保存団体の積極的な文化財保護活動を支援していけるよう検討する
----------------------------------------	---------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・制度の効果を検証する必要がある
----------------------	------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・国等の補助金の活用により活動の充実を図れるよう、情報提供を行っている
------------------	-------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・保存団体と意見交換を行い、情報提供を行うなどの連携を図る					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・制度の効果を検証する必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94733	国指定文化財保存修理事業補助金	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	7 文化財費		施策	1 文化財などの保存・継承	
	根拠計画					
実施計画事業	文化財保護事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	文化財保存団体	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	文化財を保存活用することを支援し、文化財の保存を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	修理希望のあった国指定文化財について助成を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	国重要文化財照蓮寺本堂修理工事					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	修理件数	件	目標値	2	1	1
		実績値	2	1	1		
	算出根拠等	達成率(%)		100	100	100	
		目標値	2	1	1		
	成果指標	修理件数(再掲)	件	実績値	2	1	1
		実績値	2	1	1		
	算出根拠等	達成率(%)		100	100	100	
		目標値					
	算出根拠等	実績値					
		達成率(%)					
	算出根拠等	目標値					
		実績値					
	算出根拠等	達成率(%)					
目標値							
算出根拠等	実績値						
	達成率(%)						
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	2,245	12,172	4,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			2,245	12,172	4,000	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	24	132	44	
	受益者 全市民		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・国指定文化財の修理、特に建造物については多くの修理希望があり、市民のニーズは急増している。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・国指定文化財は市民の財産であり、地方公共団体、所有者が一体となって保存に取り組み必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・修理により文化財建造物が良好に保存された。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・効率的な修理を行うよう指導を行っている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・国指定文化財の修繕により、歴史的価値を維持でき、市民の保存意識向上への啓発となった。 ・総合計画の(1)郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える ①文化財などの保存・継承 の達成に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・修理に合わせた耐震診断と耐震補強の実施
---------------------------------------	----------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・各文化財の状態を正確に把握し中長期的な計画を作成する等、計画的に取り組む必要がある。
----------------------	---------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・修理を実施する際、設計士を入れた関係者との協議や、文化財審議会での協議を行い、適正な修理が行われるよう対応している。
------------------	-------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・保存計画に基づき、今後も継続して実施する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・各文化財の状態を正確に把握し中長期的な計画を作成する等、計画的に取り組む必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94740	市指定文化財保存修理事業補助金		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承
	根拠計画	実施計画・中期財政計画					
実施計画事業	指定文化財保存修理事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どのような状態にしたいのか(意図)	・市指定文化財を保護し次代に伝える		
概要	事業の実手法(手段)	・修理希望のあった市指定文化財について助成を行う		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・正宗寺本堂 ・西教寺の夫婦マン					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	修理件数	件	目標値	3	1	1
		算出根拠等		実績値	3	1	2
	成果指標	修理件数(再掲)	件	目標値	3	1	1
		算出根拠等		実績値	3	1	2
				達成率(%)	100	100	200
		算出根拠等					
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等					
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
算出根拠等							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	9,999	3,229	10,076	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			9,999	3,229	10,076	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	108	35	110	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・市指定文化財の修理、特に建造物や天然記念物については多くの修理等の希望があり、市民のニーズは急増している。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市指定文化財は市民の財産であり、地方公共団体、所有者が一体となって保存に取り組み必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	A	・修理等により指定文化財が良好に保存された。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・効率的な修理等を行うよう指導を行っている。ただし、修理等の方法など一定の方針を定める必要がある。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・市指定文化財の修理等により、歴史的価値を維持でき、市民の保存意識向上への啓発となった。 ・総合計画の(1)郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える ①文化財などの保存・継承 の達成に効果があった。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・建造物修理に合わせた耐震診断と耐震補強の実施 ・日常の維持管理に対する啓発
---------------------------------------	-------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・各文化財の状態を正確に把握し中長期的な計画を作成する等、計画的に取り組む必要がある。
----------------------	---------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・修理等を実施する際、設計士を入れた関係者との協議や、文化財審議会での協議を行い、適正な修理等が行われるよう対応している。
------------------	---------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・修理等に対する文化財所有者のニーズは大きく、今後も事業を継続する必要がある。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・各文化財の状態を正確に把握し中長期的な計画を作成する等、計画的に取り組む必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94745	文化財関係事務費		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2356
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承
	根拠計画						
実施計画事業							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・文化財保護行政の円滑な執行		
概要	事業の実施手法(手段)	・文化財関係の協議会等への参加、負担金支出		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績						
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	805	715	1,330	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			805	715	1,330	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	9	8	15	
	受益者	市民	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	評価対象外	内部事務のため評価に適さない
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	評価対象外	内部事務のため評価に適さない
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	評価対象外	内部事務のため評価に適さない
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	評価対象外	内部事務のため評価に適さない
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	評価対象外	内部事務のため評価に適さない
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	/	→	100点換算	評価対象外	点
----	---	---	--------	-------	---

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	
---------------------------------------	--

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	文化財保護行政の円滑な執行。
----------------------	----------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	
------------------	--

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・文化財保護行政の円滑な執行。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・引き続き適正な事務の執行に努める必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94750	文化財啓発事業費		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	2	親しみ理解する機会の充実
	根拠計画						
実施計画事業	文化財標柱整備事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民、観光客	対象者数	4,115,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・文化財を良好に維持し、文化的価値を幅広く広めることで文化財に対する意識を高める。		
概要	事業の実手法(手段)	・文化財の活用・啓発のため、指定文化財等の位置、内容等を記載した説明看板、石柱等を作成設置する。 ・外国語の案内看板等を整備する。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	既設文化財説明看板の修繕及び多言語化を実施 ・支所地域での文化財標柱の設置					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	設置数	箇所	目標値	8	3	5
		実績値		10	2	3	
		算出根拠等		達成率(%)	125	67	60
	成果指標	設置数	箇所	目標値	8	3	5
		実績値		10	2	3	
		算出根拠等		達成率(%)	125	67	60
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等	達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
		算出根拠等	達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	548	415	453	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			548	415	453	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	0	0	0	
	受益者	市民、観光客	(B)	3,861,861	4,037,097	4,116,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市民の郷土学習等に活用され、文化財巡視員や見学者より好評の声が聞かれる。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・文化財保護のため、文化財の説明看板は高山市文化財保護条例で設置がうたわれており、市が中心となって設置する必要がある。 ・支所地域の文化財は地域振興としても重要。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・設置計画を立て、計画的に設置を行っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・支所別に契約しているものを一括で入れすることで一本当たりの単価を抑えている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・文化財の啓発により高山市の歴史文化の保存・活用に寄与することができる ・看板に外国語表記を追加し、ユニバーサルデザインの取り組んでいる。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・文化財標柱設置に係るコストの削減
---------------------------------------	-------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・計画的に高山市全体の説明看板や石柱等の設置を行う。
-------------------------	----------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・一本当たりの単価を抑えるため、一括で入れを行う。 ・説明看板等の多言語化を進める。
------------------	-----------------------------------------------

次年度の 実施方針 (担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・多言語化表記の普及も踏まえつつ、計画的な説明看板等の設置を全市的に行っていく。					

二次評価 (企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94753	世界文化遺産登録推進事業		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り時代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承
	根拠計画						
実施計画事業	世界文化遺産登録推進・歴史ボランティア育成支援事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・高山の町並等の世界遺産への登録 ・高山祭の屋台行事のユネスコ無形文化遺産への登録 ・歴史ボランティアの育成		
概要	事業の実施手法(手段)	・世界文化遺産登録に向けての啓発活動等 ・ユネスコ無形文化遺産の啓発活動等 ・ボランティア講座の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	ボランティア養成講座を開催。また提案地区内で各種会合の際に、啓発活動を積極的に実施した。					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	啓発軒数	件	目標値	100	100	100
				実績値	100	100	100
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	活動指標	ボランティア講座の開催	回	目標値	8	8	8
				実績値	17	9	11
				算出根拠等	達成率(%)	213	113
	成果指標	世界(有形・無形)文化遺産の登録件数	件	目標値	2	2	2
				実績値	0	0	0
				算出根拠等	達成率(%)	0	0
	成果指標	講座受講者数	人	目標値	150	150	250
				実績値	598	356	480
				算出根拠等	達成率(%)	399	237
				目標値			
			実績値				
			算出根拠等	達成率(%)			
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	100	193	96	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			100	193	96	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	1	2	1	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・世界遺産を啓発することにより、高山市の歴史文化の保存・継承に寄与することはできる。 ・観光分野や文化財保護の面からも必要で市民要望が高まっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・文化庁とのやり取りや資料作り、市民への啓発等市が主体で行わなければならない困難である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあがっている	B	・高山祭の屋台行事については、文化庁よりユネスコへ提案がなされ、平成28年に審査される予定である。 ・講座は多数の方に受講していただいている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	様々な機会で開催・講座の開設を行っており、コストは低い。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	B	・世界遺産を啓発することにより、高山市の歴史文化の保存・継承に寄与することができる。 ・歴史ボランティアガイドの育成が市長公約の実現に結びつく。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	6 / 10	→	100点換算	60 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にすることが必要なかを記入)	・世界遺産登録を目指すために、文化庁との連携を密にし、課題解決に臨む。 ・ボランティアガイドの育成は、継続して行い、幅広い人々に啓発する必要がある。
-------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・文化遺産登録に向けて、啓発活動等を積極的に行う。 ・無形文化遺産の登録に向けて、文化庁との連携を密にする。 ・ボランティアガイドの増員があり、その方々のスキルアップのため、専門の講座の開設を行う。
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・世界文化遺産登録に向けて、啓発活動等。無形文化遺産の登録に向けて、文化庁との連携を密にする。 ・まちの博物館でボランティアガイドの活動を行い、市全体への足掛かりとする。 ・ボランティアの育成に向け、各種講座を開催する。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・世界文化遺産登録に向けて、啓発活動等を積極的に行う。 ・無形文化遺産の登録に向けて、文化庁との連携を密にする。 ・ボランティアガイドの登録者数を増やす取り組みを行い、登録者のスキルアップのため専門の講座を開催する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94754	歴史的風致維持向上事業		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2354
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承
	根拠計画	歴史的風致維持向上計画					
実施計画事業	歴史的建造物耐震化等対策事業・城下町歴史的風致維持向上事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どうい状態にしたいのか(意図)	・郷土の有形無形の伝統文化を次代に伝える体制を整える		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと伝承記録として、伝承芸能等を記録として残す ・ふるさとの有形無形の伝統文化や文化財の保存活用、又は美しい景観の保全などを目的とした団体や個人の活動を認証する ・伝統的建造物の耐震化にかかるマニュアルの講習会を開催する 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと伝承記録として、清見地域のひのりの舞を記録として残した ・美しいふるさと認証として、団体や個人合わせて14団体を認証した ・高山市伝統構法耐震化マニュアルの講習会を開催した 					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	伝承芸能記録作成件数	件	目標値	1	1	1
		算出根拠等		実績値	1	1	1
	成果指標	美しいふるさと認証団体数	件	目標値			20
		算出根拠等		実績値		52	14
				達成率(%)			70
		算出根拠等					
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等					
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
算出根拠等							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	0	3,204	486	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,204		486	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	0	35	5	
	受益者	全市民	(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・伝統文化の継承や文化財保護の面からも必要で市民要望が高まっている。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・歴史的・文化的価値の評価や整備における調査などは、民間では困難である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・伝承芸能等を保存・継承することが、郷土に対する深い理解につながる
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・文化庁の補助を活用し、高山市の財政負担を軽減した
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・市長公約の美しいふるさと認証制度を推進した
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・ふるさと伝承記録や美しいふるさと認証は継続して行う必要がある
---------------------------------------	---------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・伝統構法木造建築物の耐震化促進に向けた普及・啓発を実施する必要がある
----------------------	-------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> ・伝承記録として残す ・美しいふるさと認証団体の募集と認証を行う
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きふるさと伝承記録として、地域の伝承記録等を記録する ・引き続き美しいふるさと認証団体の募集と認証を行う 					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統構法木造建築物の耐震化促進に向けた普及・啓発を実施する必要がある。 					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94755	伝統的建造物群保存地区保存事業費	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	7 文化財費		施策	1 文化財などの保存・継承	
	根拠計画	実施計画・中期財政計画				
実施計画事業	歴史的町並保存事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民、観光客	対象者数	4,115,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・伝建地区内における伝建物の保存整備及び非伝建物の景観を復元し、伝統的な景観を維持する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・伝建地区内における伝建物の修理及び非伝建物の修景事業に対する補助等。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	修理、修景8件					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	修理修景数	件	目標値	6	10	10
				実績値	7	10	8
	成果指標	算出根拠等	件	達成率(%)	117	100	80
				景観維持向上事業	目標値	6	10
	成果指標	算出根拠等	件	実績値	7	10	8
				達成率(%)	117	100	80
	成果指標	算出根拠等	件	目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等	件	達成率(%)			
				目標値			
	成果指標	算出根拠等	件	実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等	件	目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等	件	達成率(%)				
			目標値				
成果指標	算出根拠等	件	実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A) 40,487	40,252	40,186		
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		20,000	19,887	19,818		
	一般財源		20,487	20,365	20,368		
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B) 10	10	10		
	受益者	市民、観光客	(B) 3,861,861	4,037,097	4,116,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	・伝建地区内の建造物修理の希望が常にあり、高いニーズを示している。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・伝建地区内の建造物の保存を条例で定めている。 ・高山市のまちづくりの上で重要な地域であり、地方公共団体、所有者が一体となって保存に取り組む必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・保存計画、防災計画や、様々な伝建地区の調査報告などを元に保存修理、修景を行っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・補助事業の一件あたりの修理費のチェックなどを行っている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画にも位置づけられ、高山のまちづくりのもっとも重要な地域であり、修理等は効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・コストなどの削減につとめ、効率的に事業を実施する必要がある。県費補助金の復活。
---------------------------------------	------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・伝統的建築物に対応した耐震構法マニュアルを早急に整備する必要がある。 ・保存計画に基づき今後も継続して実施するとともに、建築物の使用形態や屋外広告物なども含め、地区全体のあり方について地元住民とともに考える必要がある。
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・コスト削減の視点から、修理家屋等それぞれの設計書の点検や見直しなどを行っている。 ・文化財審議会での協議で定めた修理・修景方針に基づき事業を実施する。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・保存計画に基づき、今後も継続実施する。 ・耐震化マニュアルの普及・啓発を進める。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H26完了	H27完了予定
	・保存計画に基づき今後も継続して実施するとともに、建築物の使用形態や屋外広告物なども含め、地区全体のあり方について地元住民とともに考える必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94757	伝統的建造物群保存地区防災対策事業	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	7 文化財費		施策	1 文化財など保存・継承	
	根拠計画	実施計画・中期財政計画				
実施計画事業	歴史的町並み防災対策事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民、観光客	対象者数	4,115,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	伝建地区を災害に強い町並とするために、伝建地区の土蔵の修理や防災設備の整備を継続して実施し、防火能力の向上をさせる。		
概要	事業の実施手法(手段)	伝建地区内の土蔵等修理事業に対する補助、防災設備の整備等。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	グループ火災自火報設置、グループ火災自火報1地区、土蔵修理4件					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	伝建地区土蔵等修理実施件数	件	目標値	5	4	7
		実績値	6	2	4		
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	120	50	57
		伝建地区防災向上件数	件	目標値	5	4	7
	実績値	6	2	4			
	算出根拠等		達成率(%)	120	50	57	
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
				目標値			
				実績値			
	算出根拠等		達成率(%)				
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	39,958	40,469	27,541	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			19,979	19,799	13,516	
	一般財源			19,979	20,670	14,025	
コスト指標	受益者1件当たり円(A/B)			10	10	7	
	受益者		(B)	3,861,861	4,037,097	4,116,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	国選定の文化財である三町、下二之町・大新町伝建地区の保存や防災対策事業は地区住民のみならず、一般市民、観光客からのニーズも多い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	伝建地区内の建造物の保存を条例で定めている。伝建地区の防災計画を定めている。高山市のまちづくりの上で重要な地域であり、国も地域の独自性を認めている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	保存計画、防災計画や、様々な伝建地区の調査報告などを元に保存修理、修景を行っている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	対応機器の見直しなどにより、自動火災報知設備のコストを下げる取り組みを行った。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	総合計画にも位置づけられ、高山のまちづくりのもっとも重要な地域であり、修理等は効果がある。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地元との入念な打ち合わせを行いながら、事業を推進する必要がある。
---------------------------------------	-----------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・保存計画、防災計画に基づき、今後も継続実施する。
----------------------	---------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・防災計画に基づき、事業実施する。
------------------	-------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・保存計画、防災計画に基づき、今後も継続実施する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94759	歴史的遺産等保存活用事業		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承
	根拠計画						
実施計画事業	歴史街道等活用事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	歴史街道の整備や歴史文化遺産の活用等により、郷土の歴史や文化を次代に伝える。		
概要	事業の実施手法(手段)	1. 歴史街道周辺の文化的景観地等保全計画策定 2. 地元農村景観保存組織立ち上げ支援 3. 歴史街道ルート復元整備 4. 歴史街道およびその周辺に説明板設置 5. 歴史街道沿いの休憩、拠点施設の活用及び整備 6. 天然記念物の現況調査、保護対策		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	歴史街道(越中街道)の案内看板等整備 ・位山官道整備、乗鞍青屋登山道石仏祠整備					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	測定・整備箇所	箇所	目標値	5	1	1
				実績値	2	1	3
	成果指標	算出根拠等	箇所	達成率(%)	40	100	300
				目標値	3	1	1
	成果指標	算出根拠等	箇所	実績値	2	1	3
				達成率(%)	67	100	300
	成果指標	算出根拠等	箇所	目標値			
				実績値			
	成果指標	算出根拠等	箇所	達成率(%)			
				目標値			
	成果指標	算出根拠等	箇所	実績値			
				達成率(%)			
	成果指標	算出根拠等	箇所	目標値			
実績値							
成果指標	算出根拠等	箇所	達成率(%)				
			目標値				
成果指標	算出根拠等	箇所	実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	3,811	1,493	1,382	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			3,811	1,493	1,382	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	41	16	15	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・地域から歴史文化を大切にしたいという意向がある。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・歴史街道は市民の財産であり、地域振興としての活用が見込まれるため、地方公共団体、所有者が一体となって保存に取り組む必要がある。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・旧街道の整備などにより、多くの人が歩いて楽しめる道となっている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・最低限の面積等のみを実施することなどで、測量の委託料や整備工事などの縮減につとめている。
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画の埋もれている貴重な文化財の調査・再発見につながる。 ・歴史街道巡りなどの事業が行われ、歴史・文化を活用したまちづくりにもつながっている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・地域からの要望も取り入れ、また活用方法についても検討していく。
---------------------------------------	----------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・事業効果を検証する必要がある。
----------------------	------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・各地域住民との連携を図る。 ・歴史街道を整備し、地域振興としての活用を図る。
------------------	--------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・今後も計画的に実施する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・事業効果を検証する必要がある。					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94760	高山祭屋台保存修理事業費	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2355
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	7 文化財費		施策	1 文化財など保存・継承	
	根拠計画					
実施計画事業	屋台整備事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民、観光客	対象者数	4,115,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	江戸時代から続く日本有数の祭の一つとして数えられる高山祭の宝として、後世に残していく。		
概要	事業の実施手法(手段)	国、県、受益者負担により緊急に修理が必要なものから、順次修理を行う。		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	大八台、神馬台、日枝神楽台、行神台、石橋台 修理 宝珠台蔵 修理					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	屋台及び屋台蔵の修理件数	件	目標値	4	6	5
		実績値	4	7	5		
	成果指標	祭の回数	回	目標値	2	2	2
		実績値	2	2	2		
	算出根拠等	達成率(%)		100	117	100	
		算出根拠等					
	算出根拠等	達成率(%)		100	100	100	
		算出根拠等					
	算出根拠等	達成率(%)					
		算出根拠等					
	算出根拠等	達成率(%)					
		算出根拠等					
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	37,901	38,001	36,027	
	受益者負担(使用料・負担金等)			3,789	3,789	3,600	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			18,949	18,926	18,001	
	一般財源			15,163	15,286	14,426	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	408	413	393	
	受益者 全市民		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	A	祭りの象徴ともいえる屋台整備を対象としているため、屋台組からの要望は強い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	市が屋台の管理者となっているため、妥当である。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	屋台組からの要望等により、順次実施しており、十分な成果が得られている。伝統構法や技術の継承などにも寄与している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	歴史的な文化財でもあるため、品質の維持を行うことも重要である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があつたか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があつた	A	総合計画にも位置づけられており、祭りの象徴ともいえる屋台を継承していく上でも、効果が高い。
		B (1) ある程度効果があつた		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	9 / 10	→	100点換算	90 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・国指定重要有形民俗文化財を維持するため、地元や文化庁との調整を行い、計画的に事業を実施する。
---------------------------------------	-------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・国指定重要有形民俗文化財を維持するため、地元や文化庁との調整を行い、計画的に事業を実施する。
----------------------	-------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	国指定重要有形民俗文化財を維持するため、地元や文化庁との調整を行い、計画的に事業を実施する。技術保有者を認定し、修理を実施していくことで伝統構法や技術の継承などにも寄与している。
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・国指定重要有形民俗文化財を維持するため、地元や文化庁との調整を行い、計画的に事業を実施する。					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94783	市史編纂事業費		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2356
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	7	文化財費		施策	1	文化財などの保存・継承
	根拠計画						
実施計画事業	市史等編纂事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	郷土の歴史を次代に伝える		
概要	事業の実施手法(手段)	高山市史の編纂		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 本編として「街道編」を発刊した。 建造物に関する講演会を開催し、市民への関心を高めた。 					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	刊行がなされた市史等の巻数	巻	目標値	1	1	1
				実績値	1	1	1
	成果指標	算出根拠等		達成率(%)	100	100	100
				目標値	300	300	300
		作製した冊数	冊	実績値	300	300	300
				達成率(%)	100	100	100
		算出根拠等		目標値			
				実績値			
		算出根拠等		達成率(%)			
				目標値			
		算出根拠等		実績値			
				達成率(%)			
		算出根拠等		目標値			
実績値							
	算出根拠等		達成率(%)				
			目標値				
	算出根拠等		実績値				
			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	6,385	6,158	9,429	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			6,385	6,158	9,429	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	69	67	103	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・市史が以前に発行されてから年数が経過しており、合併した地区のものも併せて新しい市史刊行への市民要望が高い。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・歴史的な価値基準を公平な視点から検討する必要があるため。 ・資料検索や時代考証等が、市が主体でない事業推進が困難なため。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	A	・本編「建造物編」を発刊した。 ・前年度に発刊した「飛騨国絵図」を利用し、講座を開催したり、特別展のテーマとして市民に幅広く歴史や文化について周知している。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・計画通りの部数を刊行した。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・歴史的な資料として発刊しただけでなく、そのテーマに沿った講座の開催や特別展の開催など、幅広く行った。 ・ホームページにも絵図を公開し、教育や観光振興に活用できるよう配慮した。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・様々な機会をとらえて、市史等の情報を提供し、より多くの受益者が歴史や文化に触れるようにする必要がある。
---------------------------------------	------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	<ul style="list-style-type: none"> 「街道編」を発刊予定。 市史に関する講演会や講座を開催し、市民への関心を高める。 ホームページでも公開し、教育や観光振興に活用できるよう配慮する。
----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 市史に関する講演会や講座を開催し、市民への関心を高める。 ホームページでも公開し、教育や観光振興に活用できるようにする。
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 「考古編」を発刊予定。 市史に関する講演会や講座を開催し、市民への関心を高める。 ホームページでも公開し、教育や観光振興に活用できるよう配慮する。 					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94800	飛騨高山まちの博物館管理費		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2977
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	8	文化施設費		施策	2	親しみ理解する機会の充実
	根拠計画	高山市教育振興基本計画					
実施計画事業	文化財保存施設等管理事業、文化財保存施設等維持補修・改修事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民、観光客	対象者数	4,115,938 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 市民や観光客が気軽に集い憩う中で、城下町高山の歴史や文化に触れることにより、郷土愛の醸成を図る。 観光客に高山の歴史を感じてもらうことで高山の魅力を知ってもらい、リピーターを増やす。 		
概要	事業の実手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 城下町高山を中心とした歴史文化について資料収集、調査研究、展示、教育普及などの活動をおこなう。 		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	<ul style="list-style-type: none"> 施設維持のための休館日を1日に抑えた。 3展示室のリニューアルを行い、より分かり易い常設展示への転換を図った。 					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	展示見直し室数(共催展示開催数・常設展示見直し数)	室	目標値	3	3	3
				実績値	4	4	4
				算出根拠等	達成率(%)	133	133
	成果指標	来館者数	人	目標値	72,000	72,000	72,000
				実績値	184,315	183,304	154,217
				算出根拠等	達成率(%)	256	255
	成果指標	研修室利用回数	人	目標値	120	120	120
				実績値	212	204	163
				算出根拠等	360日×200人	達成率(%)	177
	算出根拠等			目標値			
	算出根拠等			実績値			
	算出根拠等			達成率(%)			
	算出根拠等			目標値			
算出根拠等			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	27,817	24,099	25,789	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			27,817	24,099	25,789	
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A/B)	7	6	6		
コスト指標	受益者	(B)	3,861,861	4,037,097	4,116,605		

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか 社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・研修室利用での市民来館者が多い。一方、一部市民からは歴史・文化の拠点として期待する声が寄せられるが、見学や学習など博物館本来の機能に期待して来館する市民は少ない。今後は、各世代や関心の薄い層向けに各種事業を展開し、市民ニーズに応えていなければならない。
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	市が事業主体であることは妥当か 国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・市直営であるという信頼感から多くの資料を寄附・貸与していただいている。 ・伝統的建造物群や城下町重点地域の保全にかかる拠点施設として、多くの市民や観光客に利用いただいている。
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	目的とする成果があがっているか 成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげている	A	・旧郷土館時代の約10倍の方に来館していただいている。
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	最小限のコストで事業を実施できているか 委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか 国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか 受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・拡大整備されたものの、古い土蔵を使用した収納スペースは酒杯であり、保存環境も良好とはいえない。毎年、定期的な小規模施設整備、保管スペース確保、温湿度調整器具の導入に経費を投入する必要があり、ハード面での投資が必要である。
		B (1) 事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか 総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか 市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・県美術館の移動展や、ふるさと教育展など各種機関との連携事業を行った。 ・歴史文化の研修や伝承活動に利用されるほか、誘客案内時の拠点としても多く使われている。
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・子どもや高山の歴史について基礎知識のない方、外国人にも分かりやすい展示となるよう、解説等を順次見直ししていくことが必要。
---------------------------------------	---------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・ガイドの育成等により、まちめぐりの拠点としてより多くの人が利用し、高山の魅力を理解してもらえよう取り組む必要がある。
----------------------	-------------------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	<ul style="list-style-type: none"> 城下町高山と金森氏について、より分かり易い常設展示のリニューアル案を企画する。 他館の展示招聘や他事業との連携により、幅広い世代と来館者に対応できる企画を実施する。 養成講座により、博物館ボランティアの育成を図り、学習成果の発揮する機会を提供する。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> 館内の案内表示を増やしたり、計画的に常設展示のリニューアルを図ることで、見やすく分かり易い学習環境を整備する。 児童生徒向けのワークシート等を作成し、学校郷土学習や自主学習の支援を図る。 高山歴史講座のほか、ものづくり体験教室、調べ学習など学童やその親の世代を対象に気軽に遊び学べる教育普及事業を多数開催し、広く浅く市民サービスを提供する。 他の博物館や自治体、文化団体などとの連携による展示事業を開催し、幅広い分野での学習機会を提供する。 					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	<ul style="list-style-type: none"> まちの博物館周辺の周遊性を高めるような活用を図っていく必要がある。 ガイドの育成等により、まちめぐりの拠点としてより多くの人が利用し、高山の魅力を理解してもらえよう取り組む必要がある。 					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94815	風土記の丘学習センター等管理費	担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2354
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	5 「ゆたかさ」のあるまちをめざして	
	款	9 教育費		分野	4 文化	
	項	4 社会教育費		基本施策	1 郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える	
	目	8 文化施設費		施策	2 楽しみ理解する機会の充実	
根拠計画						
実施計画事業 文化財保存施設等管理事業・文化財保存施設等維持補修・改修事業						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・郷土の歴史に対して興味、関心を深め、文化財愛護意識を高めると共に、出土品の整理・調査研究を行い、郷土の歴史を次代に伝える		
概要	事業の実施手法(手段)	・市内遺跡の出土品の整理等 ・出土品の展示解説 ・土器づくり・勾玉づくり等の体験講座の開催		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	・風土記の丘学習センターの管理運営					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	自主事業数	事業	目標値	6	6	6
		実績値		6	6	6	
	成果指標	算出根拠等	人	達成率(%)	100	100	100
		入館者数		目標値	7,200	7,200	7,200
		算出根拠等		実績値	5,489	6,343	4,952
		達成率(%)		76	88	69	
		算出根拠等		目標値			
		実績値					
		算出根拠等		達成率(%)			
		目標値					
		算出根拠等		実績値			
		達成率(%)					
	補足事項						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	8,023	3,204	3,469	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			8,023	3,204	3,469	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	86	35	38	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・郷土学習、体験講座、展示等幅広いニーズがある
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・開発に伴う埋蔵文化財調査の拠点施設として、また、市内の遺跡から出土した資料の展示や収蔵施設として、市が管理していくことは妥当である
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・施設自体が分かりにくい場所にあるが、自主事業の開催等で周知を行っている
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	A	・節電対策等実施している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・総合計画に位置付けられていること。また、地域の歴史を知る上で重要な施設である。 ・発掘調査報告書等考古学関連の書籍を整理し、閲覧しやすいように整備する
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	8 / 10	→	100点換算	80 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(FA)評価にするために何が必要なかを記入)	・埋蔵文化財の展示を充実し、収蔵された資料が活用しやすいように整理する ・施設が分かりにくい場所にあるため、体験講座の実施などで周知が必要
---------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・事業の充実、展示の見直し等を検討し歴史遺産の活用を図る ・出土品の適正な整理保存を行う
----------------------	-------------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・郷土学習に活用できる展示の充実 ・縄文時代等の理解を深める体験講座を開催する ・出土品の整理と保管・活用
------------------	-------------------------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・事業の充実、展示の見直し等を検討し歴史遺産の活用を図る ・出土品の適正な整理保存を行う					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

平成27年度事業評価シート(一般予算) ※26年度予算事業による

事業名	94840	文化施設管理費		担当課	教育委員会事務局 文化財課	内線	2354
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	款	9	教育費		分野	4	文化
	項	4	社会教育費		基本施策	1	郷土の歴史や伝統文化を守り次代に伝える
	目	8	文化施設費		施策	2	楽しみ理解する機会の充実
	根拠計画	文化財保存施設等管理事業・文化財保存施設等維持補修・改修事業					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	対象者数	90,938 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・郷土の歴史に対して、興味・関心を深め、文化財愛護意識を高めるとともに、郷土の歴史を次代に伝える ・収蔵施設での文化財や歴史資料等の適正な保存・管理		
概要	事業の実施手法(手段)	・指定管理による施設運営 ・収蔵施設の維持管理		

2 事業の推移・結果(Do)

成果面	H26の実績	指定管理施設7施設(30,180千円)など					
	指標名		単位	目標・実績	H24	H25	H26
	活動指標	開館日数	日	目標値	280	280	365
				実績値	280	280	365
				算出根拠等	達成率(%)	100	100
	成果指標	入館者数	人	目標値	100,000	100,000	100,000
				実績値	201,975	217,802	210,297
				算出根拠等	達成率(%)	202	218
		算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
		算出根拠等	目標値				
			実績値				
			達成率(%)				
		算出根拠等	目標値				
実績値							
達成率(%)							
補足事項							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H24 決算額	H25 決算額	H26 決算額		
	歳出(千円)		(A)	43,967	46,364	44,653	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			43,967	46,364	44,653	
コスト指標	受益者1件当たり(円)		(A/B)	473	503	487	
	受益者		(B)	92,861	92,097	91,605	

3 分析・評価(Check) ※平成26年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準	評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2) ニーズが高い	B	・アンケートを行った結果、歴史・文化の学習施設として、好評を得ている
		B (1) ある程度のニーズがある		
		C (0) ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2) 事業主体を見直す余地はない	A	・文化施設を保存、活用していくには、所有者である市が主体となって行う必要がある
		B (1) 一部見直しが必要である		
		C (0) 市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2) 目的とする成果が十分にあげられている	B	・資料の収集、展示等を通して、郷土の歴史に触れる場の提供ができています
		B (1) 目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0) 目的とする成果があがっていないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2) 事業効率化・コスト削減等の改善の余地はない	B	・指定管理に委託している ・経費削減として、節電対策等を実施している
		B (1) 事業効率化・コスト削減等がある程度図られている		
		C (0) 効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2) 効果があった	A	・地域の貴重な財産である文化遺産の保存、活用に寄与する事業である
		B (1) ある程度効果があった		
		C (0) あまり効果が見られなかった		

合計	7 / 10	→	100点換算	70 点
----	--------	---	--------	------

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なかを記入)	・保存していくだけでなく、活用についても検討が必要
---------------------------------------	---------------------------

(参考) H26事業評価結果(二次評価)	・ランニングコストの低減を図りつつ、展示の見直し等、文化施設の活用充実を図る必要がある
----------------------	---------------------------------------------

4 今後の方向性(Action)

課題等に対する27年度の対応状況	・事業の充実、パンフレットの作成、展示の見直し等文化施設としての活用の充実を図る
------------------	------------------------------------------

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	・ランニングコストの低減に努める ・特別展を開催し、それに合わせて展示やパンフレットの見直し等を行う					

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	○ 拡大	○ 縮小	○ 廃止の検討	○ H26完了	○ H27完了予定
	(担当課評価に同じ)					

